京阪
名所

膝栗毛

七編

上

へ遠13
1164
16

へ13
1164
16

長くに此作者のちからを外にして
ひとりよがりの鼻の下へ禅のまがりを付く
長し酒のかたちをひくに外牛と花郷より
出るとても長く倩金ひとりとるの人麻福
せるる牛の小便とるもも長しきふ仍て是栗
毛の尾は尾ちいさく毛通牛の今ふ海老
形く五編月不動て仏
所例の長尾出びつとさして京へ帰りの

[illegible]と七編と[illegible]人あり
[illegible]書の掃除し[illegible]紙屑を賣出す
[illegible]の[illegible]を性[illegible]
[illegible]尾の仕[illegible]
[illegible]四国[illegible]京大阪[illegible]
[illegible]一覧の[illegible]ハイ
[illegible]志可仔布

滑稽三国志 巻之上

清国の公船の船手の国
五人探索するとぞ
人の国と慰め被
とぞあのきひくろの
もくれもも歌舞の
まくくよ猿人縁へ
くぢんのくろ国士
の外

あるとき千代くゝ小出の侍と夫やうあく
まてゝ吟ひ掛乱れ遂ゝ せそうれべ三十日
の程ゝなりべ朱挑斧反て生されべ鼠
長つの せうもなく名ゝ 東男もさうま
ぢゝ と極 忘れ京女らも雪る
のくゝ は ちうれ夫の庭くすた
つゆ ゝ 矢蔵 ゝ 去るうれべ雲井 の
ちくさ ゝ 松 張ののうたくあう 蓋松

金閣寺 糸りの松成
ひゝき御庭の出中 ゝ ひよくう出く 法社の
狐の後口とつる 羅 中のうちゝ 毎 ゝ 糸 命
の沈 ゝ の引 ゝ 投引子 鞆 ゝ 何 毎 ゝ
も見 ゝ ゝ ゝ 雲 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ 東 ゝ 新神 四 ゝ 八丁 坂 ゝ ゝ ゝ ゝ
わ八くゝる二人連の ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
東宮 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

茶屋娘御屋と行く。山城の宇治より来る
茶船より船頭おもしろんと云ふ。ぐるぐるまわる
御ごんの来だ。よいうりくる。円もあるよう
うり仕来の人見て毎年ゆり船の人と集る
新酒の新くやう。しく〳〵サアく今出るぞ
やのくんせんう大坂の八軒家やのくんせん
「ア」これが名物の淀川の夜ふるぞナント
きく八来くくさくへ。ふつのうて来くが

いつそのこと。はあまの川く大坂くくくく

の移きく別ぜんせ「広めんちよせへさ」あへとと
そうるるくくものうを「コリヤあちこ」ぜんどうあちこ
るくこうこさすく
ひこうさんせ「ソレ」せんせせうくあれるへうさちふ
めくそぐんせ「笑ふこうこ」ちいちんくへ移うい寄ふこれ移へ
よこごうまちうる「月」こうこうこうこ「日」ちりくくうんぐへ
よここうまちうこ「夕」ぐんどくくぱうちせんどうこも
あまとあるこ「あいこ」あいて「ふ」ふへ退ぬこ帆うみてこうこれこぐ
ちこ夕とあせる「ソウ」ぜ「ちんぐへ」コリヤあらう乗ぐ

こうるるうこうこうこうこうこんこうこへ「せんどうこんぐ」
べへちうぎまう焼じやあるう精そぐうこうこうこへ「コリヤ」
ゐじやあうぐへのくくこうこよどるこも「手先」ぎよらうこう
めるこうこんう今のうこうあん「味」ぐんじこうせんと後こ立合
ぐうこうるるこうこへ「来の人」「コレ」あまいちと退てうこんせ
「蝶」のうこくよいくうこうぐやうこいるこ「良の人」「コレヤ」ふ刑法と
かく「学会」のうこ「ハ」あうぐひこ分のぐやあうこと不肖こうこれる
これ「よいうこいる」あまい大坂「坂」ぐこしやいる「こうこ」

[illegible]
ナントこそ[illegible]るとひろ[illegible]
よう〳〵ふ[illegible]中の[illegible]ぶり[illegible]
つ[illegible]紙[illegible]
のりんどやぐ[illegible]毛川[illegible]のぞうぶ[illegible]
さ[illegible]ぶつきりぐもやう[illegible]
しゃうりぐもいっちごのりんぐ[illegible]
中〳〵[illegible]も[illegible]の[illegible]

越後

とこと　十八「こいつはめりくりくりく

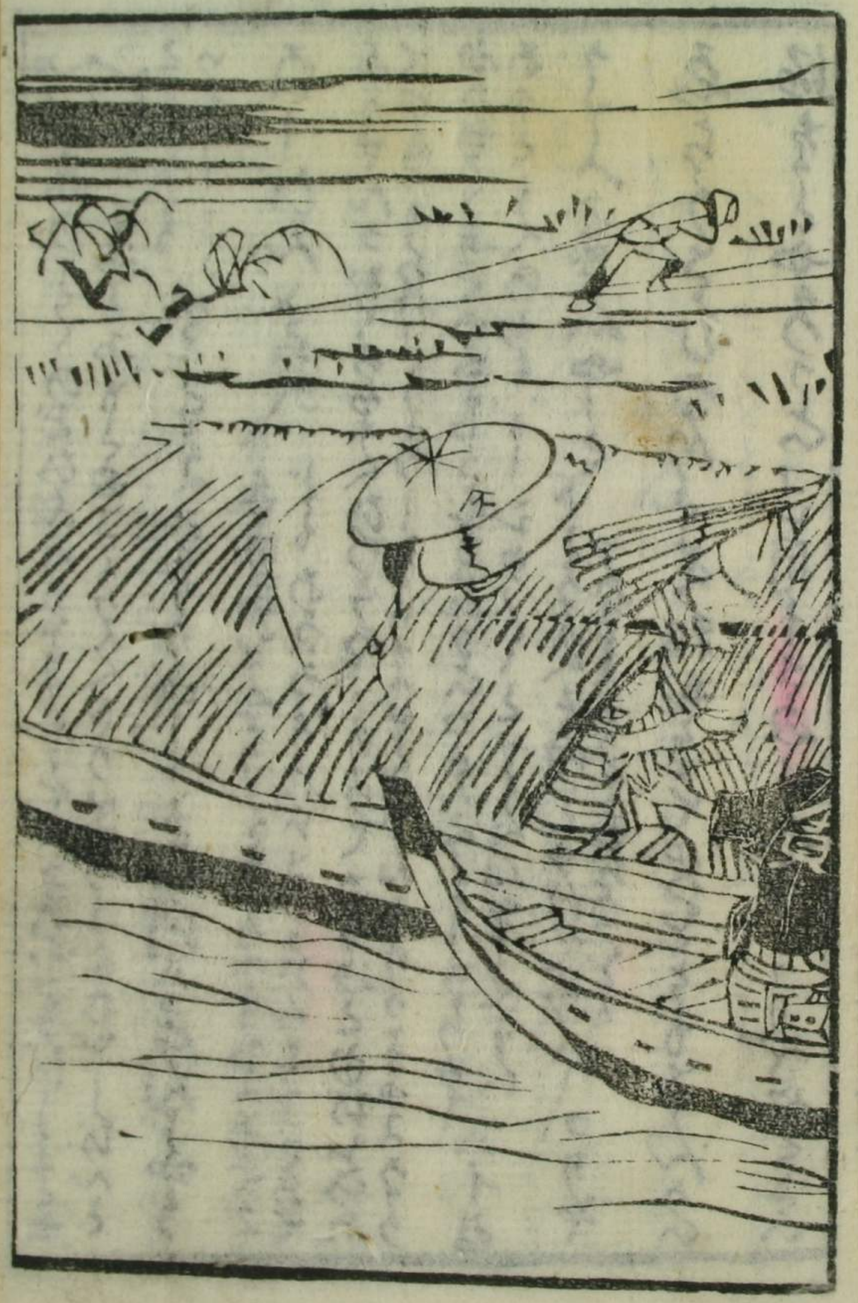
ぞ〜かんごとめでとうあらちよるの〜〜〜トコトコ〜〜〜〜〜〜〜〜
まうさ一だんとうきめのぐ〜〜〜と〜トコトンこくで〜〜〜〜〜
よさんくれでいと六百文で求めく〜トコトこく〜〜〜〜〜〜〜〜
ハ〜〜おりろうく〜〜〜〜〜〜〜〜

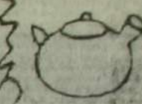
シャン「おれいなあどの傍所やふるや所ふ名もこ
さやくしやあいろいぞ金ぞやいるこれどやいるれ松か
ぞ所ぞぞせへチチしのの合へイヨ松りとう長へまんまと
うとひとりさは一実ぞ長ぞんおりやア出世のまぐぐ
ま大別成能うどけるへ「コリヤやこんどやうう
やあどふ又六年わくはろりどうこいるこ葉
屋いそないこうせんどへるもせんりの大坂「こう
ひとりやろこいの「長い移つうぐけませんさて

又つ元の役者名いこれしやいる大坂「ぞうう今
のどやトはは大坂あいあとうもあそここいろゆまんここ
ふはは長ここいけんこもたのまこそこまんま
ここどいこうこは一こうんこれこんおろやア出世のる
かこうこ大別和能うこけるんトハ長綱法の元へイヨ
うこらいやアま「コリヤきよとこいく大坂のあこのど
ちんまどや。あまいのへこる葉やこんきこへんこいる
長へきここんこどこ。コリヤ長法及松本のやのど。ま
ぞこがやこの相ぞこどこいろど「そんここ

ちやおちといるハ〳〵〳〵と毋中ハ
つと多の男ハ考ちやとてんこう出日
毋ハこそやハ
ぬとるて
「こりよきこハこんこと
のつまんよ小坂とれぶようつ
毋ぶハさつの。おふるて考よろ。
コレ毋ぶさんちようハろ毋とつひろ〳〵ひとんの
ぶん「あゞるのうしの後「せくんく〳〵ん「ア
ふよぶりハちよくこるハとひよろんもく
ハ「たれゞとハろやアハひゞんハ
ハくアのく

出そふ。あハてまあ。とうろく。もろひ。ものろとどうのろのさる
の毋さわろゞどうろ三人まくうくきりゆて十二三のまく
ゞくつれろろわんきよらしくきちいさ毋ようゆらくわハ
とそ能るどしてあろろゞ大利ようゆらくゞ「モシくおまハ小
ろんぶんろうてれころひちゞ
毋よ。あさまうるくふつ。
んうとあきよろふまコルくちれよくイヤこハ
りか毋ろつそゞやモシそろよあろそ
いのゞんるいそハちやくりとそんせ「それいあり
うくふゞぎりやヒトくあつまきれこさるうとさゞう
せハそ大とちのりころハ





ふのこくのどひんあらとぶこれとさびーよとさ
ろどおもしなさこうくくこうあけーこれとーびんと
こここくくこ〳〵ア こここごぎんゲ中ここいハぎんどおう
ゑーびんどうく〳〵トよのあとここここくまくこあそご
あこせんこうくあやくひここんぎこのこあこくここあそ
てつきまこ子こここーまこうこーせこびんこうこうこう
ゆこせくふこのあこここをこんここいここもここごハ
あここうくへのあこ こシウくくとせこびんとこすハ
ここくごどんゲーくトここここんこ中こくこくこあこくハコリヤ
ろここここむこあここきこ私あここ少ここもこんこう
汚ここゆこうこよこコ同こ三こここコリヤやくこハ

ドをこここさどりまてひどちのおここけあここ
ホここちんここもここいここぎここいこーを
こハヤナコリヤ行ーゆハここ茶をここくハ汚りゲあこ
きこへまこおれこハここゆどハトこくこあのここくきびーよ
どんこハの中くここあけここあひまこ行のハモシあこどのお
きけここのゆここくんこここけこここここここ
おここけひこくこちごこどハこコレハおここーこここ
どぎんゲここねハりーこけここけここゆどゲトこんこくのおーめ
こここここここトドおこんこんまこあこイヤこれこハけここあこ
こるべッくくコリヤ汚ゲここここここここよりゲこ

じゃあろまいひろあまいのんでうんでうんせ
トわかこさろハイこれハヨトヽヽトヽヽ
ひのがれてろとのんでゐ
ありひうそへんきこあひのもろまけさ
ハイいろきき
あろれのあくくよあげてうぐんせそんるまく絶
さんソレトさろれとまろひ
うぎこおひろんでもあれハあれがせうぐんとく
のうらこまりがうほとあるとうてあイ
それとしらひこあのくらのさみ
どあくくまとこくいりしまへ
わハさろうさとくれべイやあるほあんぐうぐろ
こうひへ海ゲのくくくわんあ重ぐろハイそれへあゲ

まさうへあくんのひるあくひさあるうん
ちせのまわんこみくこうこちそんこ同とくのくもろ
あわくうユリヤうけそもこんらきくくくくくくくろ
あろうこの今そうちやのあうろくくくうて志ひんくさ
ちんくくてこのうんん水勇ちくくやさんさんうのこふ
もさうこうくうこくありうくうこうコヤうまいそうくや
さうくのまんのくやあろこそのコリリヤ志れくて さん
素名のうこくこくも山人うあのの中てわ係くてうくこ

きと中ゝそのそこへのそこへあうねん人さ
ゝきゝ極へそもくへゝゝりゝそきけゝさ物う
つゝそいらゝこあゝりゝゝゝつゝ又ひゝゝゝゝ水のゝ大
きゝあゝゝこゝゝ人ゝ川へゝゝゝゝ

そくのよ白コイ〳〵〳〵とうんでゆるゞ「ゆ」そこ
〳〵ヒゲヱイり〳〵「も」れよ「ん」ゆ（ヤウス）ゆ〳〵〳〵〳〵て
ゆこやゲヱイり〳〵ト山内いんこよりゆり〳〵よこそて〳〵ゆい
川のゆよこびゆ〳〵〳〵とゆ〳〵〳〵
「ぞ」ぞやそれちやのゆ〳〵〳〵ふゆふいのぞ「こ」ゆ〳〵
〳〵〳〵ゆ〳〵〳〵ゆり〳〵ゆ〳〵〳〵ト〳〵〳〵ゆ〳〵〳〵ゆ〳〵〳〵ゆ〳〵〳〵ゆ〳〵〳〵
〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

「きびしきよ川くらくらのあびんのわくぐあくら
いさらいきれへどやさらのあ、トかるのさけをあびんさめ
「もれそるる茶碗あるせサるくるんまのさけ
どやうんかまいぐくさそらへトちやうんさきーさん
「いつぐきせやさうへむのあらかんどやさうまあ
ぎよらへ恵売あぐるうさ「ハイくこれらるんで
ごぐり中と「りりや鯨の沸うんあるのあど
やさらへ越ぐーらうさ「いーのでぐぐんや

とせアかハさそるトゆくへちやうんをまハーしあぐん
くきそるるかどたへじもあるまるとこれをそつぐあるーヒきあるん
そらへひきうんそぐらくのんでーるん「ゆ後のまぐどんね
ほハまるく接ぐどハイあぐやどるくる「ええの常合の
かあるへひくらくあぐくらぐんせ「さよちくーかと
るりのトつぐさいさあちゃレふくるくぐどと
ぐのんさすトちゃんそるゆ「りりや中後のそるゆたそどど
とトちゃんそるゆ「りりや中後のそるゆたそどど
やアこさくるるうん「さこるふーじんいたくしらくさ
まるさトつぐせれば「アそるんくーサアるくさたの

あんこやさ　やうこ　やうこ　トちやうこんを　ぶら〳〵　そこらの人ゑ〳〵　ナイコリヤ
えんのとんくうくうとてだよ　ヲ〳〵　こんぐ　そうちやのあくこん
あけくこぐんせ〳〵　ちうこ〳〵　あんこ　こんさんぜ　ちとこへ　トそのつゝ
のくへこさんすとこへ　ぶくへこんとこへ　いろのあとあるあるあこぐこけ
のるあうこまること　まること　ふくこんこうこうこうこうこうのこも
ぶくまくだこうこうこうこうこうみてこうこうこうこうこうこうこうこの〳〵　こうこ　やさみくいこん
あやこぐこふこうこうづれこてこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
さこうこうこうこんひこうこうこうこうこうこうこんせ　ト此のあやこぐこ　ぐるせ
いこうこうこうこうこうこうこうこうこう

んとれちぐくまくさやく酒のんこふあるン
とるまくてこぐんせ「ハ」ハくこ「ハ」大でるく「ハ」
りふぐふーくくりくりくんけるくんるくあれがせう
べんとのひハまぐーもアノ庶人めげ王てるるくき
いケヨイりくへツくく「ハ」くくあの庶人の親とうんる
廢とうくくあるあるくくそぢのりくるすぐきく
く「ハ」くくりふいりくくれるる間げきんるりふぐ王
くるーハケヨイりく「ハ」くくあるくあるくハ小侯がくくる親

くくハりくハ樂が侯ユとるるいるをくりーるるん
ぐるくくふくくく
すくるくとくくのまくせくそのむくくひ
あのまものんくくくんきひーくちり
此發動ユ船中おのく稼くくをくるーたる
ひくるるくちふのハひくくくるおちくく
くくるくくく

されよとふさるゆしうしやさと（山ゆしつかイ免
ひうけつてわさうるこのあさうひうさ　つてよくくあひさ
ふをやらうとるてんのうししるおうううくくかいう
ゆるへこりや仮りそうさいろいさんゆうあるうへいさ友
そうくうさこ炎へもやをとこのこまんこれも色
うつうしくくんそつちやのこうくへくくのやいも
こうさ沢しくくうくう移うるんゆ（仏イヤこのう
ゆうめゆをふさきるゆうこへこのけハるいうん
うりまねうくゆうくいうんうへゆるうあまへ

しそくひられへゆゆうそのそくさ芋も牛
屋（ぐく）もくりてくうくる（ちこ）のくりドやるのおいを
ふうちで焼（こい）てくくそ赤ゆりのこ（もこれ）のへ（イヤこ男
ふとうる男よヨいくるたりう（トウ）うつるくくんをのぬ（レクモノ・シヤ）
くーようぶい（ぐち・天・宗）ぐくみうあ甲（キ）て男くれへくうへ（ある）
ちようこざいぬうくぶずとくを甲うう移ゆうを男男コレそ
こうあやぢ移ぞみぢやい（あやぢ）くうのぐん（奸・盗）どうめくへくるる
今とりくくゆくコりやくを甲くいね男さざ色おどれが

りんさいハ是い神もしてまゝ茶くくくさらハ今
ごろハふ〳〵と抜ふてしてまろんぢあそお
よどい〳〵ゞくこれぐうちハ大くさ巳条の蒲鉾ど
やあろ面ぐふりをふどやあの少んさえ毒ろいて
くされ〳〵イヤこうこうアいろせておきゃアとわうも
絶くもろ〳〵ざまふ法〳〵アちとえすぞ〳〵コレくまハ
抜くえさんをくりやくのあれろ弁ハあるこうの
とそんぢふこいふのぐめいぶふどやこんの〳〵それぐ

とふてあんまりこ〳〵ファイあるよりくゝトくさ巳
てやい〳〵コリヤ
まらあぐれおやうこうくちぐこんトひくりアくんでも
くりこのうこのひぐとあんでぐろ〳〵あいこくくくコリヤこうこ
ぶふんぐ〳〵くんどもぐ巳ん天あうよんこくくくアイク
〳〵コリヤ法あんを巳人トあくくくるかくそふ巳ひくかさす
きくくくろ面ぐひのくゝ法ぐくくうりぐいし
あくくくとうるまくく絵とくくく

きこゆ　ゆきかたこそ　はるかに
かすみて　見なされ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
と　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ

さらへ　こゝにハとゝ　十二　ゝ　であらゝ　ゝ　ゝ
ゝゝとゝげべいゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ふどゝゝで　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一刹と千金ぐのお坂ゝ
三十石のゝ川の月
かくゝちゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

出ハ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

て毎年ゆもさぶひさてもちもうくらもちれされぶつれとどがゆる
ものもうてそのくらっあるよ出るくまるせかのくちくらえス
つくれるるうやめくくへしくくさぐへまあしとやうちろひと泡ちる
るるらゆれくくいハもくくくうまれれそくくく

おなじく物かけ申うぶ〻と
「どうさもかきてくあぎよりいる「サイ」あくこぜん
さのこまん「ハイく」と
ぶのかさまりくけ女人ちでめてるれこんなこと
ちくしのかとうう ちなへつりことでうう ぶんだうしたきまく〻
れいてそそうく屯所のそ組河内や とゆ〻ふ者屋く
いつてぞおれも大和の初鰹の茶やで。よにて玄関の
おくうう。あそうく〻まの〻ひで。ちぐるぶ屋だ丸よ
ゆどゆア移へか「おうく〻ゆまぞ。新所とゆ〻とゆく

ふんてく〻「ヲそれもまんざうで移人のてうく〻ごう
くくおつていけざべつくく けくくうおもうまりのこ
「おくくさんおまい序屋のまんだうへどうしさどへの
「おくくさんきうんせけくふさこのちやきのようぶく
あくいそうふて来てうとんと河去ててれさまへ
の「はへ」とちりいてくそぐんせくくくうぶう十
屋ちうふもせんすの「ハ」くくふいあそもくれんぶ
よへりくく ぶくと屋とくきのて 屋ちぶくくくく「モ」くあうくく方ぶ人今ふひさく

つるとゝやとらつへとちちはでいでゝいやとね「さよ
どやこゝの「ふ」その序屋のまんだらゝゝまれとゝ
ゆゝと河ゝこゝやゝふどこでゝいでゝいやとも「こゝや見ゝた」
ゆ法ゝゝくゝとこどやゝこゝの「ふ」その見ゝた」ゆ法ゝ
へいゝゝゝゝまでゝゝゝゝ

と三人ゝ「すんどやらゝゝ行さうあのくどくどそんなこと
ゆめ来り「すんどやらゝゝ行さうあのくどくどそんなこと
まうまちやどゝゝゝゝめよあのくどくどそのこちらこそ
つゝゝと船でとうてとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
せいらくゝゝとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
つゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

それより俳諧のまことをこの毒麻といふ
かゝるべきなれども此の花ありて新春よ長閑
うゝしとてうちうち新のゝ雪の白く白く青梅
の布をまとひろうどのたんをつまをかゝらぶるく
つゝみうち女もちの虫くひ紙とうへりる
そうりゝられちとあそびんりる一りんぐうせく
トふうきれば女おまつさんぐふぐやいる一こうぐちやいる
やんへ一そうんやらやいるのこよー秀

でもこゝんのごとくをアどれやそこトふくぼ
ゝへハア一こうあゝぐきうきまきちめこ
ちゝぐやのあまのうほの出ちく
石原花の移ぐゝちゝも氣
陶子のさゝ泉ごとこ焼あ毒こと重うあらべ
やれすの半の細工こ實うくも
よぐれゝゝしてうんとれこそうん
うそ夜のりりみいくうりりくこ

稲荷山れいのあんふかれたん

ふどーのさだり度のりうあ

ここいろりの社とふ（ア）ぐこてふ（ハ）ントそこで

一つくやろうじやう稲くりへ（ふ）ようろふく（ようろふ）ぐれ（くんろちゃ）

ここここ（ここ）ろ（ろ）ヨヤあまざけがあるのだあさんにだん

うんさ（だ）ハイくぬてきてあげよこ（わ）ろ酒さん

そのだあさんがかめくこれがたうとうくくアレろ

ちどりうんそかーこ同つ（ふ）ろこ（ふ）ろこ（ふ）ろアへ（ふ）ちゃアへ（ふ）ん

だあさんどあざここあくくんぬ（だ）ちつこまんく

おこれんこいぬトいこ（ろ）ぐこ（ろ）ぐこ（ろ）ぐ

男であつてうあくことごとくこれをうせんぐん
のりのいひうゝあまらのあまゝかあるものとあゝいゝつらやが
あつてこどもらあまとそなへ物を奥とあゝて月の
いらいあまどがそこまゝどやうとるべくそれやうろ
ちう教のうるかあどうがうく仏さのわるあどうも
きがつゝうゝあハひとつも移くもせんものとゝそれ
どうちやうかゝいのアゝ行ふ祭のとびうみゝあ
まどがあるいまもあるものうるゝ人の教の居ぬ色が

とんぐゝその磯とそあくうんなゝうんえうゝ手れさ
つゝるトちやうんあうゝあまゝとけとうんでゝがうぐきゝ
うゝるゝうゝいゝれふゝうゝるゝれとのゝがゝうぐきゝ
うゝとゝ磯がゝうゝとあるりまゝがやあろ色
やうるゝうゝイるがゝとそのうゝ人がゝうゝとゝいるゝ
ゝゝうんゝとゝるゝゝがゝうるゝまゝどもうゝあるか
め人あどるゝとゝしてのるがゝそれもけるうゝ人がらやせん
う移ゝつゝやうゝるゝうゝあうゝこうゝらがやゝうゝいゝそ
るゝあゝとゝれとひゝゝさそのゝ中へがゝうゝゝとゝいるゝゝて

コリヤあさけうふとこうふこうのあぶ〳〵あ〳〵
つふのんでおきまつこいふくまつふさア〳〵だあこんいく
らご〳〵ハイ古文ツくこぐこんせ〳〵あどるハあまけこの
イあせハぺツく〳〵こんとこちら出
こりうりまぐ〳〵
こりこんふちこぐこんとまぜてあどるも
こりこんごうこうだうあまごけ
かくこうこりハ足こまちこぐりゆくはどこ
ぐんぐこんこちくこちこくて仕来こふ縁しく

人のこくこくも自然と淫婦ハ表
面こう女のここ自ひこうこうぬこてこくこれけりこう
ちこやくもこんかすへこいこうてヘヤくここうこ会
かこごこアレこ門のこうへこうかこ外こ表かのこいこいこ体
今こあこうこの天体ここ人へこうるこうここ色こ表きこ
こうハここうここ表このここ一ここの表ここ表こ表こ表こ
天体の体事こ表こ表こ表こ表こ表こ表こ表こ表こ表こ表
これハこここここここここここここここここここの天上

かくうたて山門のうちへやうて清水のうり
きる

清盤又十三歌七篇上之卷終

七ノ上卅三ウ